

くまもと物語 14

陶芸

作り手の温もりが伝わる 土と炎の芸術品



身近な食の器、茶の道具として、焼き物は、日々を彩り続けてきました。暮らしに溶け込んだ熊本の焼き物を改めて考えます。

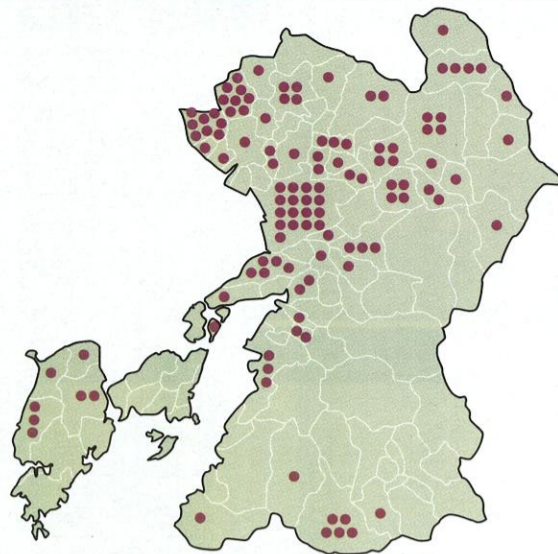
御用窯として隆盛

日本の焼き物の歴史は一万二千年といわれます。熊本でも古代から須恵器などが焼かれていました。釉薬を用いた近世窯業は、一六世紀後半、文禄、慶長の役ごろから。加藤清正、細川三斎らが朝鮮の陶工を連れ帰って技術を伝えたといわれます。八代地域の高田焼、県北地域の小代焼などは、藩好みの茶道具などを作り、代々藩の保護を受けて発展しました。

一方、天草では磁器の原料天草陶石を豊富に産出。一七世紀から、鹿児島、佐賀などに運ばれ、今では有田焼の原料の八割は天草陶石です。

一八世紀には藩の保護で、いくつもの窯が隆盛を誇りました。しかし明治になると瀬戸や有田など他の大産地から安価

窯元全体地図



な製品が流入し、相次ぎ廃業に。細々と続いていた焼き物も、経済復興とともに息を吹き返し、盛んになってきました。

焼き物を支える人々

県内にはおよそ百の窯元があります。生産形態はほとんどが家内工業。製品は問屋を通さず、個展や展示会、窯元での展示などで売られています。ファッションの一部としてブティックに置かれたり、おしゃれな趣味の店の展示棚を飾って、幅広い年齢層の焼き物ファンを引き付けます。農産物は産地内消費するものが、



おいしく体にもよいたいわれます。熊本の愛陶家たちに支えられて、その

意欲的な作家たち

の魅力を発揮しているのです。この産直型流通は、理想的な未来型の流通といえるのではないのでしょうか。

作り手も消費者にこたえるかのようにさまざまな試みを行っています。最近の作家たちは「これはパスタ皿」「こちらはビールグラス」と、使う目的をはっきりと意識して作るという傾向が強いか。作り手が焼き物に求める表現は釉薬の色、造形などそれぞれ。釉薬と温度の関係など先達が体験で学んだ事柄を科学的に研究し、技法を高め、数多く作り、公募展へ応募し、作家たちは意欲的です。職人の焼き物の質を高める努力と、焼き物を日々愛用する人々の暮らしの文化が、熊本の焼き物をさらに磨き育てていくことでしょう。

「産直住宅をとおして、住む人と呼吸しあえる家が生まれています」

寒い冬、風呂場のタイルがヒンヤリするので木製のすのこをひくと、素足に木のあたたかみを感じられます。じめじめした梅雨、押入の中のすのこはうとうしい湿度を調節してくれます。「断熱性」「保温性」だけでなく「調湿性」にも優れた木材は、私たちの生活の最も身近な住宅環境を考えると、とても大切な素材です。

そこで、今回はまず、球磨地方の森林で育った木材を利用し、木の特性を生かした木造住宅を建築している上村の現場を訪ねました。

「今までの固定観念を壊した『家づくり』に挑戦しました」と語る球磨林業育友会の松本さん。木を育てている林業家から直接消費者に木材を提供する「産地直送型」の家づくりは、地元で育った木材をふんだんに使い、木の暖かみ、特性を生かしたものです。住宅の設計に応じて、木の種類や大きさを生かし、無駄なく活用できます。今、建築中のお宅では、樹齢80年のスギの原木から、まず厚重な柱をとり、残りの部分を壁材や床材に使っていました。この『産地直送型』家づくりは、コスト減はもちろん、県産木材の需要増加、地元産業の活性化にもつな

くまもと女性特派員レポート



人吉・球磨の林業家で作る林友会。林友会初の住宅には、地元木材がふんだんに使われていました。



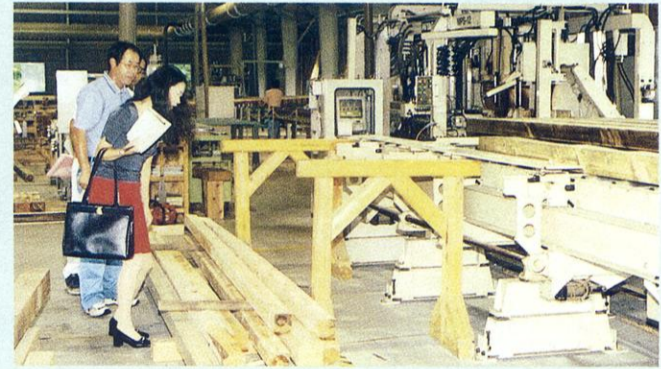
くまもと女性特派員 園田 清美さん (熊本市)

がってきます。また、林業は森林資源を有効に使った環境にやさしい産業だと再認識しました。

このような良質な木造住宅建設のために、よりよい木製材品の製造、付加価値をつける取り組みも行われています。

「球磨プレカット」工場(湯前町)では、今までは大工さんが手作業で行っていた部分を、コンピューターを使って加工し、正確で耐久性に優れた住宅資材が生産されました。また、人吉・球磨の製材業者設立の協同組合「ニュー・ランバー・クリエーション」(多良木町)では防菌・防虫効果がある薫煙処理という新しい加工法により、体や環境にもやさしい資材の提供に心がけていました。

それぞれの取り組みの中に、木をとおして家とそこに住む人が呼吸しあえる家づくりがあふれていました。



球磨プレカット

ホームページ

http://www.kings.co.jp/kumamoto-pref/

「県からのたより」へのご意見をお待ちしています。

あて先 〒862-8570 熊本県広報課「県からのたより」係 ※県庁の住所は不要です。 ☎ 096-385-2096 FAX096-386-2040

ラジオ

- CITY FM「LOOK in くまもと」 毎週木曜日 一八時三〇分〜四〇分

テレビ

- RKK「月刊くまもと情報」 毎月最終日曜日と月曜日
- TKU「くまもと探偵隊」 毎週土曜日 二時五五分〜三時
- KKT「クローズアップ熊本」 年間九本(三〇分八本・六〇分一本)
- KAB「くまもとウィークリー」 毎週日曜日 一七時二五分〜三〇分
- RKK「ふれあいくまもと」 毎週月〜土曜日 一〇時二五分〜三〇分
- FMK「県庁ダイアリー」 毎週月〜金曜日 七時三〇分〜三六分
- CITY FM「LOOK in くまもと」 毎週木曜日 一八時三〇分〜四〇分

広報誌

- 「県からのたより」 年六回発行(偶数月)
- 「彩り」 A4判・28ページ 年四回発行
- お申し込みは、千八十円(四回分の送料)の郵便切手を同封のうえ、下記まで。
- 「点字広報誌」
- 「県からのたより」の「彩り」の点字版、録音版。詳しくは、次まで。 熊本県点字図書館 (☎096-383-6333)

県広聴制度のご案内

知事への直行使 公共施設などに専用の封筒と便せんを置いています。県政へのご提案、ご意見をお待ちしています。 県政モニター 二百名の方々にご意見などをお伺いしています。 県民相談 県政に関する相談をお受けしています。 月〜金曜日、九時〜二時 二時〜三時 一六時 ☎096-383-1111 (内線3142・3143)